

1650 | 美術教育法Ⅱ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授、山口正己講師、松本敏裕講師

授業の概要と目標

造形美術教育は子どもの成長の様相を基に行われる。特に「美術教育法Ⅰ」で学んだ造形表現における子どもの発達については、造形美術教育実践者の基礎的な知識として重要である。ここではそのような発達に対応した指導の実践事例として、チゼックスクールと自由画教育運動を取り上げる。また、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の内容について学習し、それらの考え方と比較検討する。これらの学習を通して、中等教育段階での造形美術教育の構造を明らかにし、中でも学習指導要領が重視する鑑賞領域の指導を模擬授業の形で実施し、実践的に学習することを目的とする。

課題の概要

○ 通信授業課題 ※面接授業で提出

「『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を読み、現在の造形美術教科と比較考察し論述すること。」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

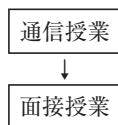
○ 面接授業課題

「中学校および高等学校における鑑賞題材を設定し、研究発表を行うこと。」

講義の中で鑑賞題材の研究発表を行い、相互に検討をする。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画



[通信授業] ※面接授業で提出

教科書『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節に掲載のチゼック問答集を精読し、現在の美術教育と比較することになるが、各質問に対するチゼックの答えについて、賛同できるもの、疑問に思うものなどに分類し、その中でもとくに重要と考えるものについて、自身の考察を加えるようにする。

・『美術教育資料研究』第Ⅲ章第 4 節 チゼックスクール

[面接授業]

チゼックスクールの実践と自由画教育運動を比較するとともに、近現代の造形美術教育史を概観する。また中学校、高等学校の学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階における授業題材開発の視点を育成する。

第 1 日 チゼックスクールの実践についての考察と日本美術教育史概説

第 2 日 自由画教育運動と中学校、高等学校学習指導要領

第 3 日 鑑賞題材の開発と研究発表

成績評価の方法

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 教職課程（中学、高校 1 種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2008 年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

*スクーリング時にセット販売

- ・文部科学省検定済小学校教科書
『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』
『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』（開隆堂出版）
- ・文部科学省検定済中学校教科書
『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）
- ・文部科学省検定済高等学校教科書
『高校美術1』『高校美術2』『高校美術3』（日本文教出版）

その他

参考図書：大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）
三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014年）